

足元から広げよう。マンホールを活用したSDGsの普及促進

富山県富山市 × 株式会社LIXIL北陸支社

(登録団体：富山県富山市)

取組概要

富山市、富山市立呉羽小学校、(株)LIXILが連携協力し、下水道への理解と関心を高めるとともに、都市の衛生環境の確保や海洋プラスチックごみ問題等の解決を図るため、生活に身近な下水道マンホールを新たな啓発ツールとして有効活用することで、市民や企業等への意識の醸成と行動変容を促し、SDGsの実践に繋がった。



SDGs マンホール (デザイン)



SDGs マンホール (セット時の様子)

基本情報

代表地方公共団体等	富山県富山市
代表民間団体等	株式会社LIXIL北陸支社
他の連携団体等	富山市立呉羽小学校
カテゴリ	環境保全対策 上下水道整備・管理 教育プログラム・学力向上
目指すSDGsゴール	

事業化までの期間

2022年12月～2023年3月

取組内容

この取組で解決した課題	<p>呉羽小学校では、児童がSDGsの達成のため「今、自分たちができること」をテーマに学習を進めていく中で、市民や企業等にSDGsを身近な問題として捉えてもらうためには、SDGsの効果的な情報発信が必要であり、そのための取組が課題であると認識していた。また、富山市においても、下水道事業の持続可能性を高めていくためには、市民に下水道への興味や関心を持ってもらい、事業運営に対する理解と協力を繋げていくことが課題となっていた。さらに、海洋プラスチックごみ問題が深刻化する中、富山市としても陸域からのプラスチックごみ等の排出抑制を図るため、市民や企業等の意識の醸成や行動変容を促し、SDGsの実践に繋げていくことが課題となっていた。こうした中、小学校でのSDGs教育活動を契機とした本取組を通じて、市民や企業等における意識の醸成や行動変容が促され、SDGsの実践による課題解決に繋がった。</p>
解決に向けた手法	<p>呉羽小学校では、SDGsについて考えるきっかけをもたらす、新たな啓発ツールとして、身近にある下水道のマンホールに着目し、下水道や海洋保全と関連するSDGsゴール14「海の豊かさを守ろう」を表現したマンホール用デザイン画を作成した。その後、呉羽小学校の児童が、富山市に対してデザイン画の作成経緯等についてプレゼンテーションを行ったことを契機として、富山市SDGsサポーターの(株)LIXILも含めた3者でのパートナーシップが実現した。</p> <p>なお、富山市では、従前から市民に下水道への興味・関心を持ってもらうことを目的にデザインマンホールやマンホールカードの制作に取り組んでいたこと、また、(株)LIXILにおいても、小学校への出前授業などで衛生環境の確保に向けた普及活動などを行っていたことなどから、呉羽小学校の取組に賛同・協力し、SDGsデザインマンホールの制作及び設置、そして情報発信の実現に至った。</p>

取組詳細

事業推進上の各団体の役割分担	<p>呉羽小学校は、SDGsゴール14に関連したマンホールのデザイン画の作成。</p> <p>(株)LIXILは、児童が作成したデザイン画をもとに、デザインマンホール（プレート）の製作。</p> <p>富山市は、呉羽小学校の取組の実現に向けた、(株)LIXILとのマッチングやデザインマンホールの設置場所の選定、設置及び産官学連携による本取組のPR。</p>
地域関係者との連携方法	<p>呉羽小学校では、児童が主体となったSDGs達成に向けた取組を地域へと広げていくため、今回の取組を小学校の広報誌やホームページで情報を発信し、教職員や保護者などを通じて</p>

	<p>地域へ展開した。</p> <p>また、(株)LIXILにおいても、本取組を社内報を通じて広く発信するとともに、富山市においてもマスコミにプレスリリースを行うなど、SDGsの実践を通じた地域の課題解決に繋がるよう、PRを行った。</p>
資金調達方法	(株)LIXIL北陸支社によるデザインマンホールプレート制作費の支援
事業推進上の課題・工夫	<p>事業推進に当たっては、小学校、民間企業及び行政のそれぞれの役割分担を明確にするとともに、何より次世代を担う子どもたちが、SDGsのゴール14の達成に向けて作成したマンホールデザインをそのままプレートに反映させることで、児童たちの想いが伝わりやすものとなるよう工夫した。</p> <p>また、小学生がデザインしたSDGsマンホールを実際に見て感じることで、より多くの市民等が衛生環境を確保するための下水道の重要性や海洋プラスチックごみ問題等を自分事として捉え、環境保全に対する意識の醸成と行動変容に繋げることが重要であったことから、設置場所は、市内でも多くの人が行き交う富山駅前で立ち止まる機会が多い横断歩道の手前を選定した。</p>

担当者のコメント

富山市では、これまでデザインマンホールの製作やマンホールカードの配布など下水道について市民に興味・関心を持ってもらう取組みを実施してきましたが、デザインマンホールを他の団体等の取組みに活用することは、富山市にとって、これまでにない新たな試みでした。今回、児童のみなさんと一緒に設置することができ、児童のみなさんの嬉しそうな顔がとても印象的でした。多くの人々の目にとまり、呉羽小学校のSDGsへの取組みを知ってもらい、今自分たちができることを考え・行動するきっかけに繋がれば嬉しく思います。

問い合わせ先

団体名称	富山県富山市
部局名	上下水道局下水道課
氏名	長澤 仁
電話番号	0764328571
eメールアドレス	gesuidou@city.toyama.lg.jp

優良事例応募項目

応募にあたっての記載事項	<p>①地方創生SDGsの視点</p> <p>これからの時代を担う若い世代が、SDGsに関心を持ち主体的に普及促進に向けた取組みを実施することは、地域へと活</p>
--------------	--

動の輪を広げ持続可能な社会につなげていくための大切な活動であると考えている。また、普段気づきにくい下水道とSDGsが密接に関係していることを生活に身近なマンホールを通じて表現し、伝えることは、下水道を使う市民全員が富山の環境を守り将来に継承することにもつながると考えている。

また、本取組を広くPRすることで、本市のシティプロモーションにも繋がり、本市の魅力向上や市内外からの交流人口等の増加も期待でき、まさに地方創生SDGsの実現に資するものと考えている。

②ステークホルダーとの連携

本取組は、小学校の児童・保護者・教職員が連携して、SDGsの達成に向けて活動の輪を広げる地域の取組みに、富山市のマンホールを活用することで実現した、学校・民間企業・行政の3団体による産官学の連携による取組みである。

③モデル性・波及性

本取組は、SDGsの達成に向けて「今、自分たちができること」として、小学生が自らの意思によりプレゼンテーションをステークホルダーに対し実施したことがきっかけである。SDGsを共通言語として、産官学がパートナーシップを構築し、児童が考えたSDGs達成の実現に向けて、民間企業が資金面、行政が設置場所等の選定などで連携協力したモデル事業として新規性がある。

また、下水道マンホールは全国に数多く設置されており、他の都市では広告としての利用も進められる中、SDGsの情報発信や行動変容を促す啓発ツールとしての有効な活用モデルであるといえ、他都市への水平展開も可能であり、全国的な波及効果も高いと考えられる。